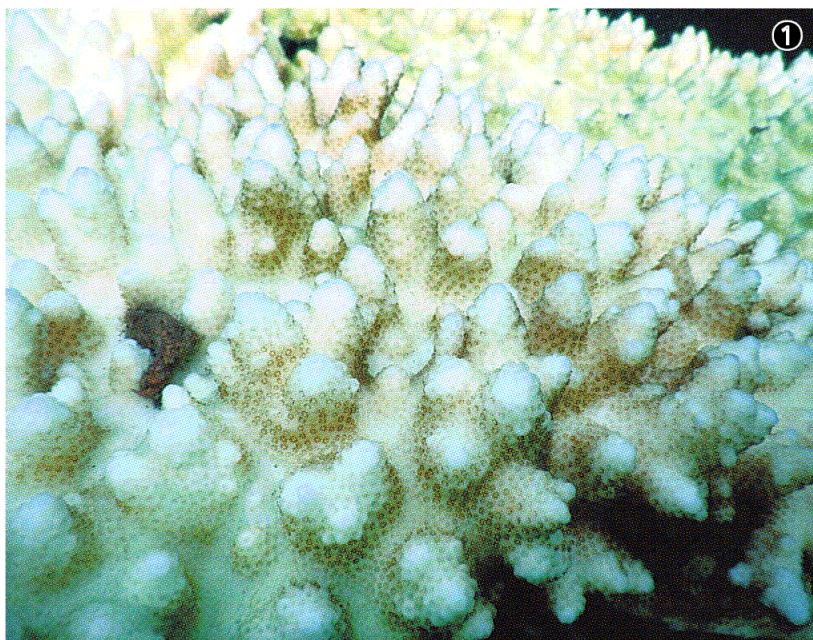
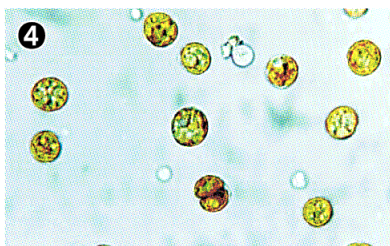
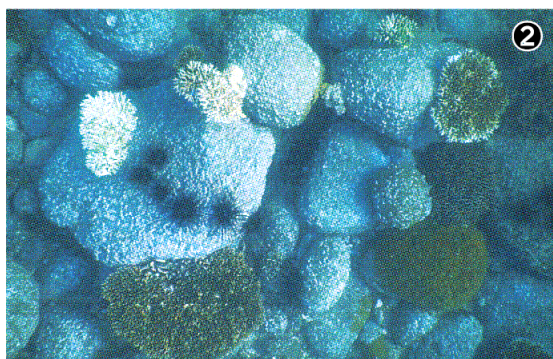




①褐虫藻がほとんどいなくなり白化したニホンミドリイシ②白化したサンゴの仲間。茶色く見えている部分が普段の状態＝いずれも2022年10月、鹿児島湾の沖小島南側③白化が長期間続き、死んで藻が生えたサンゴ。最後は崩れてなくなってしまう＝2022年11月、阿久根市の桑島周辺④顕微鏡で見た褐虫藻。大きさは約100分の1ミリ



昨年秋、鹿児島県本土沿岸の海に潜ると、あちこちで異変が起きていました。普段は茶色がかって見えるサンゴが白くなっていたのです。これを白化と言います。

石灰質の硬い骨格を持ち、サンゴ礁をつくるサンゴを「造礁サンゴ」と呼びます。体は透明ですが、体内に「褐虫藻」という藻類が共生し、その色素で茶色く見えます。褐虫藻はサンゴの体に守られながら、光合成をして酸素や炭水化物を作ります。サンゴはそれを利用して生きています。

白化は体内の褐虫藻が減り、骨格が透けて見える現象です。原因



サンゴの白化 失われる多様な生態系

は紫外線や水質悪化などいろいろありますが、中でも問題となっているのが海水温の上昇です。通常より0.5～1度高い状態が数週間続くと白化するといわれています。

原因が解消すれば褐虫藻が再び取り込まれたり、体内で増殖したりして回復していきます。しかし長く続くと、栄養が足りなくなり、サンゴは死んでしまいます。

阿久根市の桑島など幾つかの場所では大きなミドリイシの群生地がほぼ全滅しました。サンゴが消えると、食べ物やすみかに利用する貝や小魚、それをエサにする大型魚もいなくなり、サンゴが支えてきた多様な生態系も一緒に消えてしまいます。

水族館の仕事や調査で長い間見守ってきたサンゴも白化して死に、いなくなってしまうました。水面下で失われた命が、元に戻るまでには何百倍もの長い時間がかかるでしょう。

(学習交流係長・出羽尚子)